

所信表明の概要



所信表明を述べる沼崎喜一町長

第三回町議会定例会が九月二十一日に開会しました。初日には、沼崎喜一町長が所信表明をし、「当面は町の生き残りをかけた厳しい局面の連続であることを覚悟しつつ、町民から寄せられた負託に応えるべく全力を傾注する決意です。これまでの町民との積極的な対話をもとにした政治姿勢は今後も変わることはありません」と、町政推進の施策として六項目を掲げ、今後四年間の基本方針を述べました。今号ではその概要を紹介します。

町民と協働の精神のもとに 「自立する町」の実現へ全力

具体化に当たっては、多くの施策が既に総合発展計画や施政方針で示されており、継続事業となっているもの、来年度実施予定で現在検討中のものな

ども含まれておりますので、主な施策についての第七次総合発展計画の領域ごとに申し述べてまいりますのでご理解をお願い致します。

情報社会に適応し、地域特性を生かす産業のまち オランダ島の活用策を検討

本町の主力産業である漁業は、水産物輸入の増大や長引くデフレ不況の中で、魚価安が続いて厳しい経営環境にあります。

私は、このような苦境の中にあつては、漁業者自らが知恵を出し合い新たな展望を見出すための組織が必要との思いから、「水産・21世紀会議」を組織し、若い後継者の皆さんの国内外研修やグリーンツーリズム体験などを支援してきました。こうした活動の成果は「提言」としてまとめられ、またメンバーの新たな活動の場が広がるなど一定の評価が得られたことから、引き続き「水産グループ21」を組織し、新

たに十三人の後継者の皆さんに参加をいただいたところであります。今後とも後継者育成のための支援事業を継続し、漁業の振興を図ってまいります。

また、岩手を代表する素晴らしい水産物を生産するとともに、その販売にも力を入れることが重要でありますので、アサリまつりや鮭まつり、山田の魅力発信実行委員会等で計画しております「カキまつり」を含む「山田てんこ盛りフェスタ」など、生産者と消費者が直接交流しながら、地産地消の拡大が図られるよう支援してまいります。

漁協合併の動きに関しては、岩手県漁連の方針である「平成十七年度末、



海水浴場として親しまれるオランダ島。環境保全に努めながら憩いの場として新たな活用策を探っていきます

私は、任期満了に伴い、去る七月一日に執行されました山田町長選挙におきまして無投票当選し、二期目の町政を担当することになりました。初当選以来の四年間は、激動の21世紀初頭であり、市町村合併問題など本町の将来を決する重大な選択を迫られた時代でありましたが、これからも当面は町の生き残りをかけた厳しい局面の連続であることを覚悟しつつ、町民の皆さまから寄せられました負託に応えるべく全力を傾注する決意であります。

初当選以来、町民の皆さまとの積極的な対話のもと、公平・公正な政治姿勢を基本として町政推進に当たってまいりました。この考えは、いささかも変わるものではありません。

町政を取り巻く諸情勢についてであります。国が進めようとしている「三位一体の改革」は、本来、地方自治の確立に向けた「地方分権改革」であるべきであり、国庫補助負担金の廃止、地方交付税制度の改革、税源移譲を含

市町村単位十一漁協、「平成十九年度末、県一漁協」の推進に向けて後押しをしていきたいと考えています。

農業については、野菜・花きなど収益性の高い園芸作物の作付け拡大と併せて、近年、気運の高まりを見せている産地直売活動と一体的に推進し、農家所得の向上に努めてまいります。

畜産については、平成十五年度から継続事業で実施している「山田町堆肥センター」が十月末には完成します。この経営については、生産者十六人で設立した「農事組合法人エコファーム山田」に管理の代行を任せる予定であり、関係機関と連携を取りながら、経営が軌道に乗り、安定していくよう見

豊かな生活を育む自然・環境をつくるまち 快適な生活基盤の整備図る

「山田の海を守る」運動については、山に広葉樹を植える植樹祭をはじめとして、「こみゼロ作戦」など町内全域において活発に展開されており、海のみならず河川環境も含めて、次世代に引き継ぐ良好な環境の保全に努めてまいります。

海を守るとともに、水質環境の向上と水洗トイレによる快適な生活環境づくりを進めるための下水道整備については、大沢地区が平成十八年度で完了、船越・田の浜地区の面整備（管きよ敷設）については平成十八年度に完了する予定となっております。懸案でありま

む税源配分の見直しを一体として行われるべきものであります。しかしながら、平成十六年度は、国庫補助負担金の減額と大幅な地方交付税の削減が先行するなど、国の財政再建のみを先行させた地方分権改革には程遠い内容であり、国と地方の信頼関係を著しく損なうものとなりました。

本町においては、平成十三年度策定の「山田町行政改革大綱」に基づき、各般の施策を講じてきたところですが、予測を超える厳しい財政状況の中にあつて、より効果的な財源の運用による行政経費の合理化を図り、財政運営の健全化に資するために、平成十五年五月、「山田町財政健全化対策研究会」を発足させたところであります。これら取り組みにより、一定の成果が得られており、なお活動を継続しながらさらなる行財政構造改革を進め、「身の丈にあつた」持続可能な行財政の確立を図っていかねばならないものと考えております。

私は、町民の皆さまに町政推進の基本施策として▼地域の特性を生かした農林水産業活性化への積極支援、後継者育成事業の継続▼山田の魅力を活用した商工業・観光事業の育成振興▼生活環境基盤整備の促進と山田の海を守る施策の充実▼情報化社会に適応できる教育環境の整備▼保健医療の充実と少子高齢化に対応した福祉▼山田町の自立に向けた行財政計画のさらなる推進――の六項目を掲げ、その実現のために努力を傾注してまいります。

守りたいと考えています。

商工業については、個々の事業主の努力が商店街づくりとつながるよう商工会と連携し、各種助成事業や融資制度の利用促進、産業まつりや特産品の販路拡大への支援を行ってまいります。町有となったオランダ島は、町の象徴であり、陸中海岸国立公園の無人島として自然保護を基本とするものですが、素晴らしい海水浴場であることが多くの方々から認知されてきており、いろいろな活用策を観光協会、商工会などと協議しながら、町民のみならず町外からのお客さまにも憩いの場として楽しんでもらえるよう検討してまいります。

した山田地区は、処理場と中継ポンプ場用地にめどが付き、第一期六十軒について平成十七年度から実質的な工事に着手することにしており、平成二十七年から供用開始する計画で進めていきます。織笠地区は、山田地区の処理場を使用することとなっておりますので、山田地区の進捗よく状況と連動させながら進めてまいります。

柳沢北浜地区土地区画整理事業は、三陸縦貫自動車道「山田道路」のアクセス道と接続している道路整備や家屋移転も進み、橋りょう、水路、宅地造成の整備により、形が見えてきました。